

事業名：交通対策管理経費

企画課 企画係

政 策	01 自然・環境		戦 略	
取 組 の 基本方針	01 人と自然の共生		プロジェクト	
			プログラム	
開始年度	平成16年度	終了年度	—	補助金の性格

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
野幌森林公園内基線道路一般車両通行者	
手段（事務事業の内容、やり方）	
野幌森林公園内基線道路の入り口等に看板を設置し、交通量について測定する。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
一般車両の通行を抑制することにより自然環境の保全が図られる。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	江別市民	人	119,250	118,979	118,971	118,971
対象指標2						
活動指標1	通行抑制看板設置数	枚	4	4	4	4
活動指標2	交通量調査	回	1	1	1	1
成果指標1	交通量（自動車）	台	39	40	22	22
成果指標2						
事業費(A)		千円	24	21	110	23
正職員人件費(B)		千円	1,534	1,143	1,144	1,166
総事業費(A+B)		千円	1,558	1,164	1,254	1,189

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
30年度	<ul style="list-style-type: none"> 交通量調査（年1回） 関係車両証更新（地元自治会用） 	<ul style="list-style-type: none"> 交通量調査経費 21千円 関係車両証更新経費 9千円（隔年実施） 看板修繕経費 80千円 	

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
野幌森林公園の環境保全、公園散策者の安全確保の観点から、平成16年に基線の入口等に一般車両の通行量抑制のための看板を設置するとともに、毎年交通量調査を実施し効果を検証している。	
事業を取り巻く環境変化	
看板設置により、交通量は年々減少している。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>妥当性が低い</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">理由 根拠</p> <p>野幌森林公園内の良好な自然環境を維持・保全するための事業であり妥当。</p> </div>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>貢献度 大きい</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>貢献度 小さい</p> <p>基礎的事務事業</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">理由 根拠</p> <p>一般車両の通行を規制することにより、野幌森林公園内の自然環境の維持・保全につながる。</p> </div>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>どちらかといえば上がっている</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>上がっていない</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">理由 根拠</p> <p>通行抑制看板を設置して以来、一般車両の通行量が減少しており、取組の成果は上がっている。</p> </div>
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>成果向上余地 大</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>成果向上余地 中</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">理由 根拠</p> <p>取組を継続することで、一般車両の通行量のさらなる減少が期待できる余地がある。</p> </div>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>ある</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">理由 根拠</p> <p>必要最低限の費用で実施している。</p> </div>

事業名：都市景観創出事業

都市計画課 計画係

政 策	05 都市基盤		戦 略	
取組の 基本方針	01 市街地整備の推進		プロジェクト	
			プログラム	
開始年度	昭和62年度	終了年度	—	補助金の性格

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
市民	
手段（事務事業の内容、やり方）	
<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の開催と景観パンフレットの発行により、景観に関する啓発・情報発信を行う。 ・3年毎に都市景観賞を開催し、市民や企業などによる優れた景観創出・活動に対する表彰を行う。 ・美原大橋のライトアップを行い、江別市の特色ある都市景観の創出を図る。（節電に伴い、24年度7月より休止） 	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
都市景観に対する意識の高揚と、江別らしい景観づくりへの理解と関心を高める。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	市民	人	119,250	118,979	118,971	118,971
対象指標2						
活動指標1	企画展の開催日数	日	21	28	28	21
活動指標2	美原大橋ライトアップ日数	日	0	0	11	0
成果指標1	企画展参加者数	人	436	340	395	450
成果指標2						
事業費(A)		千円	745	120	225	604
正職員人件費(B)		千円	6,136	762	1,525	3,110
総事業費(A+B)		千円	6,881	882	1,750	3,714

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり彩々展の開催 ・フォトコンテストの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり彩々展の開催経費 83千円 ・フォトコンテストの開催経費 81千円 	

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
都市景観の向上と快適な都市環境を創り出すため、景観に対する意識の高まりを図ろうとの目的で開始された普及啓発事業である。	
事業を取り巻く環境変化	
企画展に多数の参加者があり、景観パンフレットの配布数も多いことから、市民や事業者などによる景観に関する取組みが市民に認知・評価されてきている。 市内の景観資源の周知を目的として、平成30年度から3年毎に都市景観フォトコンテストを開催している。 平成24年7月から休止していた美原大橋のライトアップについて、都市景観フォトコンテストの開催に合わせて試行的に再開したものの、平成30年9月の胆振東部地震による節電意識の高まりから、今後は、フォトコンテスト開催期間等の限定的な点灯とする。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
<p>妥当性が低い</p> <p>理由 根拠</p>	<p>景観づくりの機運向上のための普及啓発活動や、公共空間における景観向上の取組は、総合的な都市景観形成の推進役として行政が行う必要がある。</p>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
<p>貢献度 ふつう</p> <p>貢献度 小さい</p> <p>基礎的事務事業</p> <p>理由 根拠</p>	<p>景観形成基本計画による将来都市像「暮らしていて、ほっとする景観のあるまち」の実現のために、景観を誘導する観点として、唯一の事業であるため貢献度は大きい。</p>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
<p>上がっている</p> <p>理由 根拠</p> <p>上がっていない</p>	<p>企画展や景観パンフレットの配布により、市民に幅広く景観に対する意識の醸成を図っている。平成30年度の企画展の参加者は前年より増加しており、市民の関心は高い。 また、平成30年度に実施した都市景観フォトコンテストにおいては、414件の応募があり、SNSによる投票数が7,165票と多くの参加があった。</p>
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
<p>成果向上余地 大</p> <p>理由 根拠</p> <p>成果向上余地 小・なし</p>	<p>企画展や景観パンフレットの更なる充実を図るとともに、平成30年度に開催した都市景観フォトコンテストの実施結果を分析し、次回の開催方法の改善等により参加者増加に繋げるなど、成果向上の余地がある。</p>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
<p>ある</p> <p>理由 根拠</p>	<p>景観パンフレットやイベントポスターのデザインや原版の作成、企画展の展示物や配布物の作成や会場設営などを職員が直営で行っており、必要最小限の経費で実施している。</p>

事業名：大麻地区住環境活性化事業

政策推進課参事（住環境活性化・シティプロモート）

政 策	05 都市基盤		戦 略	03 次世代に向けた住みよいえつづくり	
取組の 基本方針	01 市街地整備の推進		プロジェクト	B 駅を中心とした暮らしやすいまちづくり（えべつ版コンパクトなまちづくり）	
			プログラム	③ 高齢者等がいいきと活動しやすい居住環境の充実	
開始年度	平成22年度	終了年度	平成30年度	補助金の性格	

事務事業の目的と成果					
対象（誰、何に対して事業を行うのか）					
大麻・文京台地区の住民					
手段（事務事業の内容、やり方）					
<ul style="list-style-type: none"> ・住まいに関する相談窓口の設置等により、住民の高齢化や家屋の老朽化等が進む大麻地区全体における高齢者の住み替えや空家の利活用による子育て世代の移住を進めるため、住環境の活性化に向けた取組を行う。 ・大麻地区の課題に取り組む市民組織である「江別市安心生活まちづくり推進事業運営協議会」の活動を支援する。 					
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）					
高齢者や子育て世代を含む多様な方々にとって住みやすい住環境の整備に向けた取組やまちづくり活動等を支援することで、住み替えや空家の利活用が促進される。					

指標・事業費の推移						
	区分	単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	大麻・文京台地区の人口	人	28,656	28,782	28,905	0
対象指標2						
活動指標1	まちづくり活動等の事業数	件	3	3	3	0
活動指標2						
成果指標1	住まい相談件数	件	15	34	17	0
成果指標2						
	事業費(A)	千円	5,174	6,012	5,861	0
	正職員人件費(B)	千円	12,272	9,142	10,678	0
	総事業費(A+B)	千円	17,446	15,154	16,539	0

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・住み替え支援相談窓口の運営 ・ニュースレター、HPによる情報発信 ・セミナー開催などのまちづくり活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊の報酬等 4,547千円 ・消耗品費等 259千円 ・ニュースレター発行・配布 210千円 ・電話代等 130千円 ・車両管理経費 715千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
<ul style="list-style-type: none"> ・「大麻団地まちづくり指針」に沿った住民主体のまちづくりを展開する。 	
事業を取り巻く環境変化	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年10月、大麻団地住環境活性化調査研究会から、市長に「大麻団地まちづくり指針」を大麻のまちづくりの道標として活用すべきとの提言があった。 ・平成22年度には、上記調査研究会の住民組織により、「大麻・文京台まちづくり推進会議」が発足した。 ・平成25年度には、市民活動、不動産、建築、商工、福祉などの各関係団体等で構成する「江別市安心生活まちづくり推進事業運営協議会」が発足し、大麻団地の課題解決に向けた取り組みについて検討を行った。 ・平成28年度からは、2名の地域おこし協力隊を採用し、取組の支援を行っている。 ・平成28年度以降、大麻文京台地区は社会増のみならず人口増を維持している。 	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当である <hr/> 理由 根拠	大麻地区は、団地の開発造成後50年以上を経過し高齢化の進行、住宅の老朽化等が進んでいたが、近年不動産の流動化と宅地造成の進展がみられ、高齢化の鈍化や人口増が続いていることから、住み替え支援、情報発信をそれぞれ移住、シティブロモートと連携し、他地区にも展開することで効率上がる。
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 大きい <hr/> 貢献度 小さい 基礎的事務事業 理由 根拠	市内外への情報発信等により、大麻・文京台地区の良好な住環境をPRすることで、不動産流動化など活性化を促している。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
上がっている <hr/> 上がっていない 理由 根拠	平成28年度から常設した住み替え相談窓口の相談件数は一定数あり、移住の問い合わせが中心となっている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 大 <hr/> 成果向上余地 小・なし 理由 根拠	地域おこし協力隊を活用し住民と連携して地域の活性化に取り組んでいるとともに、自主的な住み替えや移住による人口増も進んでいる。そのため、この地区に留まらず、他地区へ展開することにより、成果の向上が期待できる。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
ある <hr/> 理由 根拠	現在の事業費用は地域おこし協力隊の報酬や事務費など活動費用であり、この制度を活用する間はコストの削減は困難である。

事業名：生活バス路線運行補助事業

政策推進課参事（公共交通）

政 策	05 都市基盤		戦 略	
取組の 基本方針	02 交通環境の充実		プロジェクト	
			プログラム	
開始年度	—	終了年度	—	補助金の性格 事業補助

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
生活バス路線事業者	
手段（事務事業の内容、やり方）	
<p>「江別市生活バス路線運行費補助金交付要綱」に基づき、国や道の補助対象とならない市内完結バス路線を対象として、事業費の収支差に対する補助金を交付する。</p> <p>概要：1路線につき上限額1,000万円 要件：運行回数1日1回以上、輸送量5人以上、運行キロ程5km以上</p>	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
<ul style="list-style-type: none"> 生活バス路線の運行が維持される。 交通弱者の移動の利便性が確保される。 	

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	バス路線数（系統数）	系統	29	29	28	28
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	2,000	28,901	30,000	38,000
活動指標2	補助対象バス路線数	路線	2	3	3	2
成果指標1	バス路線の廃止数（系統数）	系統	1	0	1	0
成果指標2						
事業費(A)		千円	2,000	28,901	30,000	38,000
正職員人件費(B)		千円	2,301	2,285	2,288	2,333
総事業費(A+B)		千円	4,301	31,186	32,288	40,333

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
30年度	バス路線運行費に対し補助金を支出	バス路線運行費への補助金 30,000千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
当初は国・道との協調補助のみだったが、平成13年度から市単独補助要綱を制定。	
事業を取り巻く環境変化	
<ul style="list-style-type: none"> ・路線バス利用者数の減少傾向が継続している。 ・利用者の減少に伴い、4系統（江別2番通線のうち、2系統、江別線及び大麻団地線のうちそれぞれ1系統）が、平成27年3月末で廃止された。 ・利用者の減少に伴い、1系統（当江線）が平成28年3月末で廃止された。 ・江別市地域公共交通再編実施計画に基づき、江別4番通線（2系統）、江別錦町線（3系統）が廃止され、野幌見晴台線（4系統）が新設された。 	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当性が低い	理由 根拠 <p>市民の生活の足であるバス路線は、特に通勤・通学者、高齢者、病気や身体に障害を有する方々にとって重要な公共交通機関であり、これを維持するために、市が運行経費の一部を補助することは妥当である。</p>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 ふつう 貢献度 小さい 基礎的事務事業	理由 根拠 <p>赤字バス路線に対し、補助金を交付することにより、バス事業者の負担を軽減し、安定したバス運行を行うことができることから、公共交通の充実に貢献している。</p>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
上がっている どちらかといえば上がっている	理由 根拠 <p>補助金により、バス路線の維持確保につながっていると理解しているが、路線バス利用者数の減少や運行事業者における乗務員の不足などにより、路線の維持は依然として難しい状況にある。</p>
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 大 成果向上余地 中	理由 根拠 <p>バス路線を維持するためには、赤字対策の補助制度は重要である一方で、利用者数の減少が続いていることや、バス事業者においても、乗務員の確保が難しくなってきているなど、路線の収支以外でも厳しい現状がある。</p>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
ある	理由 根拠 <p>赤字バス路線に対する補助金の削減は、バス路線の廃止や減便に直結する恐れがある。</p>

事業名：豊幌駅舎共同管理経費（補助金）

政策推進課参事（公共交通）

政 策	05 都市基盤		戦 略	
取組の 基本方針	02 交通環境の充実		プロジェクト	
			プログラム	
開始年度	昭和59年度	終了年度	—	補助金の性格
				事業補助

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
豊幌地区の住民	
手段（事務事業の内容、やり方）	
「豊幌駅業務運営費補助要綱」に基づき、豊幌駅の管理運営を行う自治会に対し、当該管理運営経費の一部を予算の範囲内で補助する。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
豊幌駅に管理人が配置されることにより、駅利用者の利便性、安全性が確保される。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	豊幌地区の人口	人	2,673	2,631	2,639	2,639
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	550	550	550	550
活動指標2						
成果指標1	豊幌駅の利用に関する苦情件数	件	0	0	0	0
成果指標2						
事業費(A)		千円	550	550	550	550
正職員人件費(B)		千円	767	762	763	778
総事業費(A+B)		千円	1,317	1,312	1,313	1,328

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
30年度	駅業務運営に対し補助金を支出	駅業務運営への補助金 550千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
昭和59年の無人化に伴い、江別市が費用の一部を負担して管理人を置くこととなった。	
事業を取り巻く環境変化	
<ul style="list-style-type: none"> ・市の補助金は平成13年度に510千円から550千円に増額している。 ・平成18年度にはプラットホームに屋根つきの待合所が数箇所設置され、利便性の向上が図られた。 	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 妥当性が低い </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding-right: 10px;">理由根拠</div> <div style="flex-grow: 1;"> <p>江別市が補助金を交付することにより、無人駅に管理人が配置され、利用者は安心して駅を利用することができる。また、JR北海道からは管理委託料が払われており、自治会も一部運営費を負担しているなど、市民共同の事業であり、市も補助金を交付することは妥当である。</p> </div> </div>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 貢献度 大きい </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding-right: 10px;">理由根拠</div> <div style="flex-grow: 1;"> <p>補助金を交付することにより、継続的に管理人を置くことができ、駅舎の利便性が確保されており、貢献している。</p> </div> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 貢献度 小さい 基礎的事務事業 </div>	
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 上がっている </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding-right: 10px;">理由根拠</div> <div style="flex-grow: 1;"> <p>駅舎の管理人を継続的に確保できており、それにより利用者が安心して駅を利用できる状態になっている。</p> </div> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 上がっていない </div>	
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 成果向上余地 大 </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding-right: 10px;">理由根拠</div> <div style="flex-grow: 1;"> <p>駅舎の管理については、JR北海道と自治会との契約が主体であり、利用者が安心して利用できるよう現在の状況を維持する。</p> </div> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 成果向上余地 中 </div>	
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ある </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; padding-right: 10px;">理由根拠</div> <div style="flex-grow: 1;"> <p>補助金の減額は、管理人の継続確保等に支障をきたす可能性が高い。</p> </div> </div>

事業名：公共交通利用促進対策事業

政策推進課参事（公共交通）






政 策	05 都市基盤		戦 略	03 次世代に向けた住みよいてつづくり	
取組の 基本方針	02 交通環境の充実		プロジェクト	B 駅を中心とした暮らしやすいまちづくり（えべつ版コンパクトなまちづくり）	
			プログラム	② 交通ネットワークの充実	
開始年度	平成25年度	終了年度	—	補助金の性格	

事務事業の目的と成果					
対象（誰、何に対して事業を行うのか）					
市民					
手段（事務事業の内容、やり方）					
<ul style="list-style-type: none"> ・江別市地域公共交通活性化協議会（市、公共交通事業者、公共交通利用者、学識経験者等で構成）において地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画を作成し、両計画に基づくバス路線再編や利用促進策を実施する。 ・上記協議会を開催し、両計画の推進状況の確認及び評価を行う。 ・市民に対して、バス路線マップの配布や市ホームページ・広報誌による情報発信を引き続き行うほか、地域公共交通網形成計画に基づき、より効果的な公共交通の利用促進策等を実施する。 					
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）					
交通機能を維持・確保することに加え、情報提供の強化等を図ることにより、利用が促進される。					

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	市民	人	119,250	118,979	118,971	118,971
対象指標2						
活動指標1	利便性向上や利用促進等のために行った事業数	件	4	4	4	4
活動指標2						
成果指標1	バス輸送人員	千人	610	602	548	562
成果指標2						
事業費(A)		千円	4,578	10,932	9,624	6,123
正職員人件費(B)		千円	12,272	11,427	11,441	11,663
総事業費(A+B)		千円	16,850	22,359	21,065	17,786

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通活性化協議会の開催 ・地域公共交通網形成計画等の作成 ・市内バス路線の再編 ・バスの利用促進、利用啓発等 ・郊外部における新たな交通手段導入の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通網形成計画等の推進等委託料 1,388千円 ・バス路線再編事業補助金 4,423千円 ・江北地区デマンド型交通補助金 633千円 ・地域公共交通活性化協議会の開催 297千円 ・バス路線マップ等の作成、広報折込 2,517千円 	

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
バスの利用減少が進み、公共交通の課題解決に向けた検討が必要な状況にある。	
事業を取り巻く環境変化	
<ul style="list-style-type: none"> ・野幌駅の高架化及び周辺整備に伴い、駅を中心とした交通機能の向上や利便性向上に向けて、新たなバス路線の運行など具体的な取組をする必要がある。 ・道路運送法に基づき、市、事業者、学識経験者等を構成員として設置していた地域公共交通会議を拡充して、平成28年度に、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく地域公共交通活性化協議会を立ち上げた。当該協議会において、持続可能な公共交通の実現のため、市内全体のバス路線再編に向けた協議を行い、平成30年度に江別市地域公共交通網形成計画及び江別市地域公共交通再編実施計画を策定し路線再編を行った。 	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当性が低い 	より良い公共交通の実現に向けて、今後の公共交通のあり方等を検討することは、市のまちづくりの観点から必要である。
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 ふつう 貢献度 小さい 基礎的事務事業 	交通機能の維持・確保、利便性の向上等に向けた検討や取組を進めることにより、交通環境の充実につながる。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
上がっている どちらかといえば上がっている 	自家用車の普及に伴うバス利用者数の減少、路線収支の悪化や事業者における乗務員不足等により路線バスの減便などが続いている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 大  成果向上余地 小・なし	地域公共交通活性化協議会において、利便性向上や利用促進等も検討し、計画策定及び実施することにより、成果が向上する余地はある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
なし 	事業者との連携や国などの補助等により、コスト削減の余地はある。

事業名：大学連携調査研究助成事業

企画課 企画係

政 策	08 協働	戦 略	01 ともにつくる協働のまちづくり
取組の 基本方針	01 協働のまちづくりの推進	プロジェクト	B 大学が活躍するまちづくり
		プログラム	① 大学の得意分野を活かした地域の活性化
開始年度	平成21年度	終了年度	—
		補助金の性格	政策的補助

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内4大学（酪農学園大学、北翔大学（短期大学部を含む）、札幌学院大学、北海道情報大学）の教員及び教員を中心とした団体。

手段（事務事業の内容、やり方）

第6次江別市総合計画の「えべつ未来戦略」に関わる事業等で、市内4大学に所属する教員が行う江別市の課題解決や地域活性化に貢献する調査研究事業に対し、大学連携調査研究事業補助金を交付する。

【根拠要綱】江別市大学連携調査研究事業補助金交付要綱

【補助率及び上限額】補助対象経費の全額又は一部について、1,000千円を上限に補助

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

市内4大学の教員及び教員を中心とした団体に対して補助金を交付し、地域の課題解決につながる具体性・実用性の高い調査研究を実施できるようにする。また、大学の研究等を地域の課題解決に生かす。

指標・事業費の推移

区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	市内4大学所属教員数（短大含む）	人	475	474	477	477
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	2,697	2,859	2,625	2,600
活動指標2						
成果指標1	補助事業件数	件	5	5	5	4
成果指標2						
事業費(A)		千円	2,721	2,893	2,640	2,639
正職員人件費(B)		千円	3,452	3,047	3,051	3,110
総事業費(A+B)		千円	6,173	5,940	5,691	5,749

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	<ul style="list-style-type: none"> 市内4大学の教員が行う江別市の地域課題や地域活性化に貢献する調査研究事業に対し補助金を交付する。 前年度の補助事業について、報告会を開催する。 【平成30年度採択事業】 小学校のプログラミング教育必修化に向けた教材の調査と試作 江別市を食と健康のまちとして発信するための基礎的調査研究 他計5件採択 	江別市大学連携調査研究事業補助金 2,625千円 大学連携事業報告会会場使用料 15千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
平成21年2月に市内4大学（札幌学院大学、北翔大学、北海道情報大学、酪農学園大学）、江別商工会議所、江別市の間で、「江別市・大学・江別商工会議所による包括連携・協力に関する協定」が締結されたのをきっかけとして、協定の主旨である「各種分野において、互いに連携・協力することにより、地域社会の持続的発展に資する」ことを具現化するため、平成21年7月に「大学連携調査研究事業補助金」が創設された。	
事業を取り巻く環境変化	
研究結果を市の施策に活用しやすくするため、募集するテーマを総合計画に即して変更している。 平成21年度～ 「産業振興」「地域福祉」「教育・文化」「市のまちづくり」 平成24年度～ 「人口」「環境」「安心・安全」 平成26年度～ 「産業活性化」「住みよいまちづくり」「シティプロモート」「本市における喫緊の課題」	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>妥当性が低い</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">理由根拠</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>現在の補助対象の研究テーマは、江別市総合計画のえべつ未来戦略に関するものとしていることから、当事業による研究結果は、地域課題に対する提言につながる。</p> </div> </div> </div>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>貢献度 ふつう</p> <p>貢献度 小さい</p> <p>基礎的事務事業</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">理由根拠</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>募集する研究テーマは、江別市総合計画のえべつ未来戦略に関するものとしており、江別市が重点的集中的に取り組む政策と大学の補助研究が同じ方向性であるため、研究結果が大学と行政との協働によるまちづくりにつながる。</p> </div> </div> </div>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">理由根拠</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>研究結果については、最新の知見を生かした防災訓練の実施、地元産野菜を生かした食品開発、衛星写真を活用した小学校における環境教材の製作など、幅広い分野でまちづくりに生かされている。</p> </div> </div> </div>
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>成果向上余地 大</p> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>成果向上余地 小・なし</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">理由根拠</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>研究結果を広く周知することで、成果活用の幅が広がる余地がある。</p> </div> </div> </div>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> <p>ある</p> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; height: 15px; width: 100%;"></div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="background-color: #cccccc; border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">理由根拠</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>補助費が経費の大部分を占めるため、事業費の削減による効率化は困難である。その一方で、補助金要綱を改正するなどして、手続きの簡素化を図ってきている。</p> </div> </div> </div>

事業名：大学連携学生地域活動支援事業

企画課 企画係

政 策	08 協働	戦 略	01 ともにつくる協働のまちづくり
取組の 基本方針	01 協働のまちづくりの推進	プロジェクト	B 大学が活躍するまちづくり
		プログラム	③ 学生の力を活かしたまちづくり
開始年度	平成22年度	終了年度	—
		補助金の性格	政策的補助

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
市内4大学（酪農学園大学、北翔大学（短期大学部を含む）、札幌学院大学、北海道情報大学）に所属する学生団体	
手段（事務事業の内容、やり方）	
市内4大学に所属する学生団体が行う、自主的な取組による地域住民とのふれあいやまちづくりに関する事業（環境活動、地域福祉、教育及び文化、観光及び産業、その他まちづくりに関する事業）に対し、補助金を交付する。 【根拠要綱】江別市大学連携学生地域活動支援事業補助金交付要綱 【補助率及び上限額】補助対象経費の全額又は一部について、100千円を上限に補助	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
市内4大学に在学する学生が、江別市民の一員としての意識を持つことが、地域と大学による協働のまちづくりにつながることから、市の補助により、学生が自主的に、地域住民とのふれあいやまちづくりに関する取組を実施できるようにする。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	市内4大学に在学する学生数（短期大学部含む）	人	9,991	9,722	9,865	9,865
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	300	297	387	400
活動指標2						
成果指標1	補助事業本数	件	6	4	6	6
成果指標2	補助事業申請件数	件	6	8	6	6
事業費(A)		千円	327	297	412	400
正職員人件費(B)		千円	3,452	3,047	3,814	3,888
総事業費(A+B)		千円	3,779	3,344	4,226	4,288

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
30年度	<ul style="list-style-type: none"> 市内4大学に所属する学生が行う、自主的な取り組みによる地域住民とのふれあいやまちづくりに関する事業に対し、補助金を交付する。 【平成30年度採択事業】 ・食と健康教室in江別 ・地域と繋がる地域資源の活用2018 他計6件採択 	大学連携学生地域活動支援事業補助金 387千円 えべつ未来づくり学生コンペティション 実行委員会負担金 25千円	

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
各分野においての連携・協力により、地域社会の持続的発展に資することを目的に平成21年に締結した「江別市・大学・江別商工会議所による包括連携・協力に関する協定」に基づき、平成22年に大学連携学生地域活動支援事業補助金を創設。学生による自主的な地域活動などを支援するために当該事業を開始。	
事業を取り巻く環境変化	
近年は、市内大学に在学する学生数が減少傾向にあるにも関わらず、当該事業の定着により、予算を超える申請が毎年度ある。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当性が低い 理由 根拠	市の補助により、市内大学に在学する学生が、自主的に地域活動へ取り組むことは、学生の地域とのつながりを深め、地域と大学による協働のまちづくりにつながることから、市の役割として妥当である。
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 ふつう 貢献度 小さい 基礎的事務事業 理由 根拠	当事業は、「えべつ未来戦略01 ともにつくる協働のまちづくり、戦略プロジェクトB 大学が活躍するまちづくり、推進プログラム③ 学生の力を生かしたまちづくり」に位置づけており、江別市にとって重要な資源である大学及び学生の力を生かした当該事業の上位貢献度は大きい。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
どちらかといえば上がっている 上がっていない 理由 根拠	毎年、一定の応募件数があることから、市内4大学の学生が地域へ関心を寄せているといえ、計画通りに成果は上がっている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 大 成果向上余地 小・なし 理由 根拠	当事業は平成22年度から実施しており、過去の実績や学生への周知などにより事業が理解されてきている。今後、更なる申請件数の増加により、事業の質の向上につながる可能性もあることから、成果向上の余地はある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
ある 理由 根拠	補助金を交付する事業であり、採択事業決定までの手続きの簡素化など、事務の見直しを行ってきていることから、コスト（所要時間）の削減は困難である。

事業名：大学版出前講座支援事業

企画課 企画係

政 策	08 協働		戦 略	01 ともにつくる協働のまちづくり	
取組の 基本方針	01 協働のまちづくりの推進		プロジェクト	B 大学が活躍するまちづくり	
			プログラム	① 大学の得意分野を活かした地域の活性化	
開始年度	平成26年度	終了年度	—	補助金の性格	

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市民・市内4大学（酪農学園大学、北翔大学（短期大学部を含む）、札幌学院大学、北海道情報大学）

手段（事務事業の内容、やり方）

市内4大学の研究機能を発揮し、協働のまちづくりを推進するため、地域活性化・地域課題解決の研究成果や大学の特色を生かしたテーマにおいて、講師が地域に出向いて実施する出前講座を支援する。

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）


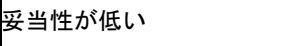

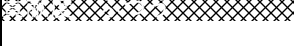







講座開催を通じて、各大学は、日頃の研究や取組みについて市民に知ってもらう機会を得るとともに、参加した市民は様々な知識に触れる機会を得る。また、このことを通して大学と市民の相互理解が促され、協働のまちづくりの実現につながる。

指標・事業費の推移

区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	出前講座講師登録者数	人	61	61	61	61
対象指標2						
活動指標1	出前講座実施件数	件	8	5	4	4
活動指標2						
成果指標1	出前講座参加者数	人	248	289	232	100
成果指標2						
事業費(A)		千円	40	0	0	30
正職員人件費(B)		千円	3,068	3,047	2,288	2,333
総事業費(A+B)		千円	3,108	3,047	2,288	2,363

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座受付及び大学との調整 事業の周知、PR（パンフレットの作成配布、ホームページ、広報等） 	

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
市内に4つの大学が立地し、文教都市としての側面がある当市では、大学と連携した取り組みを推進しており、各大学の特色を活かした研究について市民に知ってもらう機会を提供するため事業を開始した。	
事業を取り巻く環境変化	
各大学が特色のある研究や取組を行っているなか、その研究結果等を出前講座をととして市民に知ってもらうことで、江別について考え、まちを見つめ直す機会を創出する取り組みを進めている。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当性が低い   妥当性が低い	理由 根拠  4大学が特色ある研究や取組を行っていることは当市の強みであり、大学と市民が連携して地域問題の解決策を探っていくことは有益である。出前講座の実施は、そのきっかけのひとつとなるものであり、協働のまちづくりの推進に寄与することから妥当である。
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 大きい  貢献度 小さい 基礎的事務事業	理由 根拠  当該事業は「えべつ未来戦略01 ともにつくる協働のまちづくり、戦略プロジェクトB 大学が活躍するまちづくり、推進プログラム① 大学の得意分野を活かした地域の活性化」に位置づけており、大学の研究機能を活用するとともに、大学と地域が交流する活動を促進することは、総合計画の貢献につながっている。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
上がっている  上がっていない	理由 根拠  申込団体や会場の規模によりばらつきはあるが、参加者数は、一定数を維持しており、順調といえる。
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 	理由 根拠  当事業の講師は大学教員であることから日程などが制約される。このことから、一定数以上の開催は難しい面がある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
ある 	理由 根拠  平成30年度については講座資料等の印刷費は発生しなかった。

事業名：学生地域定着自治体連携事業

企画課 企画係

政 策	08 協働	戦 略	01 ともにつくる協働のまちづくり
取組の 基本方針	01 協働のまちづくりの推進	プロジェクト	B 大学が活躍するまちづくり
		プログラム	③ 学生の力を活かしたまちづくり
開始年度	平成27年度	終了年度	—
			補助金の性格

事務事業の目的と成果			
対象（誰、何に対して事業を行うのか）			
市内4大学（酪農学園大学、北翔大学（短期大学部を含む）、札幌学院大学、北海道情報大学）に所属する学生			
手段（事務事業の内容、やり方）			
連携する自治体（江別市、芦別市、赤平市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町）の各地域へ市内4大学の学生を就業・定住させるため、学生地域定着推進広域連携協議会を運営し、市内で実施する地域活動プログラム（インターンシップ、ワークショップ、地域イベント参画など）へ学生が参加するための支援を行う。支援の手段は、地域活動プログラムと学生のマッチングや、交通費等の支給。			
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			
市内4大学の学生が地域の魅力を知り、将来的に市内で就業・定住することを目的に、地域活動プログラムに参加する学生の増加を図る。また、協議会の運営を通じて、連携する各自治体への就業・定住についても実現を図る。			

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	市内大学に在学する学生数（短期大学部含む）	人	9,991	9,722	9,865	9,865
対象指標2	協議会加入自治体数	団体	8	8	8	8
活動指標1	地域活動等実施プログラム数	件	27	44	39	35
活動指標2						
成果指標1	市内の地域活動等に参加した延べ学生数	人	482	569	445	580
成果指標2	参加者のうち市内へ就業した者の人数	人	0	0	4	1
事業費(A)		千円	3,617	3,403	3,299	3,417
正職員人件費(B)		千円	7,670	7,618	7,627	7,775
総事業費(A+B)		千円	11,287	11,021	10,926	11,192

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	<ul style="list-style-type: none"> 学生地域定着推進広域連携協議会の運営 学生地域活動プログラムへの参加支援 	<ul style="list-style-type: none"> 学生地域定着推進広域連携協議会負担金 3,261千円 消耗品等 26千円 一般使用料賃借料 12千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
若い世代の首都圏や札幌など大都市圏への流出が課題となっている中、本市においても大学卒業後における市内企業等への就職者が少なく、市外への流出が顕著である。 こうしたことから、4大学1短大があり約1万人の学生が在学している地域特性を生かし、道内自治体や市内関係団体と連携して「学生地域定着推進広域連携協議会」を平成27年12月に設立し、学生の就職や定住等、地域への定着を目指して、学生と地域活動とのマッチング支援を行う当事業を開始した。	
事業を取り巻く環境変化	
平成27年度の学生地域定着推進広域連携協議会の設立、試行プログラムの実施を経て、平成28年度から本格実施。事業展開に伴い、関係団体や企業等の本事業に対する理解が深まりつつある。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当性が低い 理由 根拠	江別市内に若者が就職・定住することに伴い、経済面などへの波及効果が地域全体に及ぶことや、事業の実施に際し、大学・学生・企業・関係団体等さまざまな主体と調整を図る必要があることから、市が役割を担うことが妥当である。
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 ふつう 貢献度 小さい 基礎的事務事業 理由 根拠	当事業は、「えべつ未来戦略01 ともにつくる協働のまちづくり、戦略プロジェクトB 大学が活躍するまちづくり、推進プログラム③ 学生の力を活かしたまちづくり」に位置づけており、市内の地域活動に参加した延べ学生数が増加することにより、学生の地域への就職、定住といった地域定着の推進につながり、上位貢献度は大きくなる。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
どちらかといえば上がっている 上がっていない 理由 根拠	当事業は平成27年度に開始、平成28年度から本格実施している。江別市内では、各種イベントボランティア、ワークショップ、インターンシップなどの地域活動プログラムに数多くの学生が参加し、該当地域の企業へ就職する例も出ており、一定の成果が出ているといえる。地域活動プログラムへの参加は、地域や企業を知るきっかけとなり、就業や定着の足がかりとなっている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 大 成果向上余地 小・なし 理由 根拠	事業継続によりノウハウが蓄積され、事業の認識が高まるにつれて、学生と地域活動プログラムのマッチング精度が向上することから、成果向上の余地もある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
なし 理由 根拠	事業費は協議会の負担金のため削減は難しいが、事業の継続により情報が蓄積し、地域活動の質の向上やマッチングの効率化で事務量が軽減され、運営に係るコスト（所要時間）を削減できる可能性がある。

事業名：男女の出会いの場づくり支援事業

企画課 企画係

政 策	08 協働		戦 略	
取 組 の 基本方針	01 協働のまちづくりの推進		フロンティア	
			プログラム	
開始年度	平成27年度	終了年度	—	補助金の性格

事務事業の目的と成果				
対象（誰、何に対して事業を行うのか）				
市内の未婚者（25～44歳）				
手段（事務事業の内容、やり方）				
市内関係機関等との連携協力により、独身の男女の出会い、交流の場を提供するイベントを開催する。				
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）				
独身の男女の出会いの場づくりを支援する。				

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	未婚者数（25～44歳）（国勢調査結果）	人	9,335	9,335	9,335	9,335
対象指標2						
活動指標1	イベントの実施回数	回	2	2	1	1
活動指標2						
成果指標1	イベントへの参加人数	人	69	54	40	30
成果指標2						
事業費(A)		千円	893	786	465	410
正職員人件費(B)		千円	3,835	2,285	1,144	1,166
総事業費(A+B)		千円	4,728	3,071	1,609	1,576

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	独身男女の出会いを支援する交流イベントを開催	イベント開催委託料 465千円

事業を取り巻く環境変化
事業開始背景
少子高齢化が加速する中、晩婚化・晩産化の解消に向け、行政としても若い世代へ出会いの機会を提供するとともに江別市をPRし交流人口を増加させることを目指し事業を開始した。
事業を取り巻く環境変化
複数の市内団体が類似のイベントを開催する状況となってきた。

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当性が低い	理由 根拠 晩婚化・晩産化の解消へ向け、行政としても若い世代の結婚を支援する取り組みが必要である。
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 大きい	理由 根拠 男女の出会いの場を提供することで、交流人口や定住人口の増加へつながることが期待される。
貢献度 小さい 基礎的事務事業	
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
上がっている	理由 根拠 多数の参加者があり、一定の成果があると考えられる。
上がっていない	
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 大	理由 根拠 イベントの内容やPR手法の検討により、成果が向上する余地はある。
成果向上余地 小・なし	
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
ある	理由 根拠 必要最小限のコストで実施。

事業名：国際交流情報提供事業

秘書課 秘書係

政 策	08 協働	戦 略	
取組の 基本方針	02 国際交流の推進	プロジェクト	
		プログラム	
開始年度	平成10年度	終了年度	—
			補助金の性格

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・市民
- ・市内通勤、通学者

手段（事務事業の内容、やり方）

日本語に堪能で地域の国際化事業に理解と意欲のある外国人を市国際交流員（CIR）として継続的に雇用し以下の事業を実施する。

- 1. 文書、刊行物等の翻訳、監修
- 2. 国際交流事業の企画、立案、実施協力
- 3. 地域住民・市職員に対する語学指導への協力
- 4. 地域住民の異文化理解交流活動への協力
- 5. 海外との連絡・調整、通訳、訪問客の接遇
- 6. 在住外国人へのサポート

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- 1. 地域住民等に国際感覚や国際意識を持ってもらう
- 2. 地域住民等に異文化に対する理解を深めてもらう
- 3. 在住外国人にも住みやすい街にする

指標・事業費の推移

区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標 1	市民	人	119,250	118,979	118,971	118,971
対象指標 2						
活動指標 1	国際交流員が係った地域国際化のための講座・イベント等開催回数	回	142	106	148	140
活動指標 2	海外と江別市とで交わした行政文書等の数	通	810	1,056	632	600
成果指標 1	国際交流員が係った地域国際化のための講座・イベント等の参加者数	人	1,207	1,876	1,233	1,250
成果指標 2						
事業費(A)		千円	5,617	5,636	5,628	5,650
正職員人件費(B)		千円	1,151	1,143	1,144	1,166
総事業費(A+B)		千円	6,768	6,779	6,772	6,816

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講演（出前講座、語学教室） ・刊行物等の翻訳 ・市ホームページの作成、更新 ・国際交流事業の協力助言 ・姉妹都市グレンシャム市との連絡調整、文書作成等 ・在住外国人への情報提供 外 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流員報酬 5,400千円 ・国際交流員費用弁償（旅費外） 228千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
地域住民の国際理解や在住外国人にとって住みやすいまちづくりを推進するため、日本語に堪能で地域の国際化に理解と意欲のある外国人を国際交流員として雇用することとした。	
事業を取り巻く環境変化	
社会のグローバル化の中で、市民や将来を担う子供達にとって国際理解を深めコミュニケーションスキルを向上させて行く必要があるとともに、諸外国の情報を得ることは重要となっている。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
<p>妥当性が低い</p>	<p>理由 根拠</p> <p>地域社会の国際化を先導、推進していくことは、行政の役割と考える。地域の国際化や国際理解が進むことにより、外国人にとっても住みやすいまちとなり、地域社会の質の向上につながる。</p>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
<p>貢献度 ふつう</p> <p>貢献度 小さい</p> <p>基礎的事務事業</p>	<p>理由 根拠</p> <p>地域の国際化や地域住民の国際理解、交流を進めるうえで、機動性が高く、様々な業務に対応できる国際交流員の果たす役割は非常に大きい。</p>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
<p>上がっている</p> <p>上がっていない</p>	<p>理由 根拠</p> <p>外国人向けの生活情報パンフレットやホームページの作成などにより、外国人への情報提供の充実を図っているほか、中高生の相互訪問時には、姉妹都市との連絡・調整などきめ細かく対応している。</p>
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 小・なし</p>	<p>理由 根拠</p> <p>現在の国際交流員の活動は、地域社会に受け入れられ、一定の成果を出している。引き続き、地域住民が国際交流員と接する機会を増やすことで、市民が外国人と積極的にコミュニケーションを図る能力を身につけることが期待できる。</p>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
<p>ある</p>	<p>理由 根拠</p> <p>国際交流員の報酬については、業務内容に即したもので、かつ一定レベルの生活保障が不可欠であるが、その他の経費については、実費弁償とするなど必要最小限の支出とすることで、コスト削減を図っている。</p>

事業名：江別国際センター施設管理費等補助金

秘書課 秘書係

政 策	08 協働		戦 略	
取組の 基本方針	02 国際交流の推進		プロジェクト	
			プログラム	
開始年度	平成 8年度	終了年度	—	補助金の性格
				団体運営補助

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
江別市国際交流推進協議会	
手段（事務事業の内容、やり方）	
江別市内の各国際交流団体等で構成された組織である「江別市国際交流推進協議会」に対し、同協議会が管理・運営している「江別国際センター」の事業運営費の一部を補助する。 補助金内訳：テナント賃借料、光熱水費、スタッフ人件費	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
国際交流施設が安定的に運営される。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標 1	江別市国際交流推進協議会の構成団体数	団体	21	21	24	24
対象指標 2						
活動指標 1	補助金額	千円	3,447	3,352	3,196	3,223
活動指標 2						
成果指標 1	利用者数	人	10,947	11,224	11,429	11,500
成果指標 2						
事業費 (A)		千円	3,447	3,352	3,196	3,223
正職員人件費 (B)		千円	1,227	1,219	1,144	1,166
総事業費 (A + B)		千円	4,674	4,571	4,340	4,389

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
30年度	以下の事業を実施する江別市国際交流推進協議会に対し、活動拠点となる江別国際センターの施設維持管理のための補助金を支出する。 ・外国人との交流イベントの実施 ・英語、韓国語などの外国語講座 ・会報、ホームページ等での広報 ・外国人に対するホームステイや通訳などのサポート支援	・江別国際センター施設維持管理に対する補助金	3,196千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
平成8年に市内の国際交流活動の拠点として開設された当センターは、市内の大学や国際交流団体が構成された江別市国際交流推進協議会が管理、運営を行っており、地域の国際化・国際交流の推進に大いに寄与している。	
事業を取り巻く環境変化	
平成24年7月の商業施設内への仮移転後においても、語学教室やイベントの開催など広く周知を図ったことから、利用者も増加傾向にある。また、従来からの事業に加え、隣接する市民活動センターと連携した事業を模索するなど、新規利用者の増加に向けた取組みが進められている。 ※令和元年12月下旬に開設予定の「市民交流施設」へ移転予定	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
<p>妥当性が低い</p>	<p>理由 根拠</p> <p>国際交流推進協議会及びその構成団体が様々な活動を安定的に実施するうえで必要なものであり、妥当と考える。特に市民の国際交流・国際理解に係る事業や活動は、市がリーダーシップを持って進めるよりも、地域住民が中心となって広く浸透させていくことが効果的であるが、当協議会は、多くの市民の努力により、行政に代わって市民が主体的に活動する団体に成長した。しかし、活動の性格上、大きな利益を得る事業の実施は難しく、活動基盤が脆弱であることから、今後も協議会の果たす役割を支えるうえで、市の財政基盤は不可欠と考える。</p>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
<p>貢献度 ふつう</p> <p>貢献度 小さい</p> <p>基礎的事務事業</p>	<p>理由 根拠</p> <p>市民の国際交流・国際理解を促進するための基本となる事業であり、貢献度は大きい。</p>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
<p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p>	<p>理由 根拠</p> <p>協議会が管理・運営する国際センターは、市民や国際交流団体が事業や交流活動を行なう拠点となっているとともに、多様な事業を通じ、市民の国際交流や国際理解の推進、市内在住の外国人へのサポート等が図られている。また、幼児等を対象とした新たなイベントを実施するなど、協議会加盟団体ではない一般市民のセンター訪問者数が増加傾向にあり、近年の成果指標の推移は安定傾向にある。</p>
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 中</p>	<p>理由 根拠</p> <p>当事業によって、国際交流推進協議会及びその構成団体の安定的な活動の場が確保できており、現状で適当である。</p>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
<p>ある</p>	<p>理由 根拠</p> <p>テナント賃借料や光熱水費については、固定的な費用であり、大幅な削減は難しいが、センターの利便性を活かした新たな事業を実施するなどして、自主財源の確保に努める。</p>

事業名：江別市都市提携委員会補助金

秘書課 秘書係

政 策	08 協働		戦 略	
取 組 の 基本方針	02 国際交流の推進		フロンティア	
			プログラム	
開始年度	昭和52年度	終了年度	—	補助金の性格
				団体運営補助

事務事業の目的と成果				
対象（誰、何に対して事業を行うのか）				
江別市都市提携委員会				
手段（事務事業の内容、やり方）				
姉妹・友好都市交流を行う江別市都市提携委員会に対し、その事業費を補助する。 補助金内訳：学生及び市民派遣費、交換学生等受入費				
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）				
江別市都市提携委員会に補助を行うことで、当委員会が以下の成果をあげることができる。 1. 異文化を理解し、広い視野をもった市民を増やす 2. 市民ボランティアとして活躍出来る人を増やす 3. 姉妹・友好都市との交流を通じて自分のまちの歴史や状況を客観的に理解し、郷土を愛する心を育むとともに、国際感覚を身につけ国際社会に貢献できることを目指す				

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	江別市都市提携委員会委員数	人	44	44	44	44
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	500	500	450	450
活動指標2						
成果指標1	姉妹都市・友好都市派遣人数	人	4	3	3	3
成果指標2	姉妹都市・友好都市受入人数	人	3	3	3	3
事業費(A)		千円	500	500	450	450
正職員人件費(B)		千円	384	381	381	389
総事業費(A+B)		千円	884	881	831	839

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	以下の事業を実施する江別市都市提携委員会に対し補助金を支出する。 ・姉妹都市グレンハム市との高校生相互派遣 ・姉妹都市、友好都市を訪問する団体への助成 ・姉妹都市、友好都市に関する市民PR ・国際交流イベントへの参加及び展示物等出展協力 ・友好都市土佐市訪問団との交流	・江別市都市提携委員会への補助金 450千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
当委員会は、姉妹都市グレシャム市、友好都市土佐市との間で、教育・文化・産業・経済等の交流を図るための諸事業を積極的に推進し、相互の友好親善に大いに寄与するため、昭和53年に設立された。	
事業を取り巻く環境変化	
姉妹都市や友好都市との交流の懸け橋として、市内各種団体に構成する都市提携委員会に求められる役割は重要となっている。また、例年、グレシャム市派遣を希望する中高生も増加傾向にあり、市民の国際理解への関心が高いことが伺える。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当性が低い <hr/> 妥当性が低い	理由根拠 姉妹・友好都市交流を行う江別市都市提携委員会の事業は、地域間交流、国際交流の促進に貢献している。しかし、当該団体の財政基盤は非常に弱く、補助なしには事業の継続は難しい。したがって、市から当該団体への補助は妥当と考える。
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 大きい <hr/> 貢献度 小さい 基礎的事務事業	理由根拠 異文化交流の推進に貢献している。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
上がっている <hr/> 上がっていない	理由根拠 受入・派遣された中高生はともに、異文化を体験したことで将来の進路を見つめ直すきっかけとなるなど、生徒本人だけでなく、学校など周囲にも良い影響を与えている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 大 <hr/> 成果向上余地 小・なし	理由根拠 姉妹・友好都市への訪問で得たことを、できるだけ多くの人々で共有することによって、成果の向上が期待できる。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
ある <hr/> ある	理由根拠 姉妹都市や友好都市との交流の懸け橋として、グレシャム市への高校生派遣などの事業に必要な最小限のコストで取り組んでいる。これ以上の削減は、事業の縮小につながり、当委員会の成果の低下へとつながる。

事業名：友好都市提携40周年記念事業

秘書課 秘書係


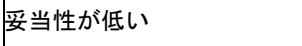

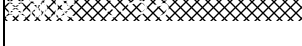

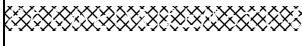




政 策	08 協働		戦 略	
取 組 の 基本方針	02 国際交流の推進		フロンティア	
			プログラム	
開始年度	平成30年度	終了年度	平成30年度	補助金の性格

事務事業の目的と成果				
対象（誰、何に対して事業を行うのか）				
江別市民、土佐市民				
手段（事務事業の内容、やり方）				
友好都市提携40周年を記念した記念式典・祝賀会等の開催				
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）				
市民の友好都市に対する理解を深め、今後の都市間交流の充実と円滑化を図る。				

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	江別市民、土佐市民	人	0	0	146,146	0
対象指標2						
活動指標1	事業費	千円	0	0	925	0
活動指標2						
成果指標1	記念式典・祝賀会等の参加者数	人	0	0	670	0
成果指標2						
事業費(A)		千円	0	0	925	0
正職員人件費(B)		千円	0	0	2,288	0
総事業費(A+B)		千円	0	0	3,213	0

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
30年度	友好都市提携40周年記念事業（土佐市訪問団受入） ・記念式典・祝賀会 ・記念プロジェクトマップ ・記念チョコレートアート署名セレモニー ・記念植樹 ・交流ママさんバレーボール大会 ほか	土佐市訪問団受入経費 925千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
高知県土佐市との友好都市提携が平成30年に40周年を迎えることから、この節目を祝い、両市の絆を深めるために記念事業を実施する。	
事業を取り巻く環境変化	
原則、5年ごとの周年事業（相互訪問等）の実施は、両市の市民が交流できる貴重な機会となっており、経済、文化、スポーツ、教育など、様々な面での相互交流、相互連携の推進に寄与していることから継続していくことが重要である。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当性が低い   妥当性が高い	理由 根拠  友好都市との記念すべき節目に、これまでの交流を振り返りながら、今後の交流の充実と円滑化を図り、両市の親交と理解を深めていくうえで、周年事業の実施効果は高い。
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 大きい  貢献度 小さい 基礎的事務事業	理由 根拠  友好都市との相互交流により、両市民が交流できる貴重な機会となり、友好親善、相互連携の推進による都市間交流の充実に寄与している。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
上がっている  上がっていない	理由 根拠  両市の市民が参加して、記念事業等を実施したことにより、両市の親交が深まり、今後の交流の一層の充実を再確認したことで、友好親善、相互連携の意識が高まった。
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 	理由 根拠  周年事業のため事業は完了 ※記念事業を契機に、経済、文化、スポーツ、教育など、様々な面での交流が一層期待できる。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
ある 	理由 根拠  周年事業のため事業は完了

事業名：行政改革推進事業

政策推進課 主査（政策推進）

政 策	09 計画推進		戦 略	
取組の 基本方針	01 自主・自立の市政運営の推進		プロジェクト	
			プログラム	
開始年度	平成13年度	終了年度	—	補助金の性格

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
市職員	
手段（事務事業の内容、やり方）	
<ul style="list-style-type: none"> ・行政改革大綱に基づく行政改革推進計画を実施する。 ・行政改革推進委員会を開催し、行政改革に関する意見や助言を求める。 ・次期行政改革推進計画の検討、策定を行う。 	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
<ul style="list-style-type: none"> ・市職員が高い意識を持って、行政改革に取り組んでいる。 	

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	市職員数	人	1,160	1,162	1,139	1,139
対象指標2						
活動指標1	行政改革推進委員会開催回数	回	2	1	4	2
活動指標2	行革関連事業等開催回数	回	5	4	20	4
成果指標1	行政改革取組項目数	件	26	26	26	23
成果指標2	行革関連事業参加者数	人	111	74	271	85
事業費(A)		千円	116	47	230	134
正職員人件費(B)		千円	4,219	3,428	4,576	3,888
総事業費(A+B)		千円	4,335	3,475	4,806	4,022

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・行政改革推進委員会の開催 ・次期行政改革推進計画の検討及び策定に係る庁内検討プロジェクトチームにおける会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政改革推進委員会開催経費 230千円（報償費・会場使用料）

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
市では、平成14年に改定された「行政改革大綱」において、「行政改革推進計画」を策定し、大綱で示す基本方針の具体的な取組の推進を図ることとした。 このことに併せて、「行政改革推進計画」進行管理と職員の意識向上を図るため、本事業を開始した。	
事業を取り巻く環境変化	
平成14年度	「行政改革大綱（H14～H16）」改定、「行政改革推進計画（H14～H16）」策定
平成17年度	「行政改革大綱」改定、「行政改革推進計画（H17～H22）」策定
平成26年度	「行政改革大綱」改定、「行政改革推進計画（H26～H30）」策定
平成30年度	「行政改革推進計画（2019年度～2023年度）」策定

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
<p>妥当性が低い</p> <p>理由 根拠</p>	<p>本事業は、効率的な行政サービスの執行と健全な財政を確保し、基礎自治体としての機能を充実させ、自主自立の市政運営を目的として、行政改革の取組を進めるものであり、市の役割に適うものである。</p>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
<p>貢献度 大きい</p> <p>理由 根拠</p> <p>貢献度 小さい</p> <p>基礎的事務事業</p>	<p>「江別市行政改革大綱」は、第6次江別市総合計画の個別計画として位置付けられ、総合計画が目指すまちづくりの推進に向けて、必要な行政運営の見直しに関する方針となるものである本事業は、「江別市行政改革大綱」に基づき、主に職員の意識向上を図るもので、上位計画へ貢献するものである。</p>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
<p>上がっている</p> <p>理由 根拠</p> <p>上がっていない</p>	<p>これまで「江別市行政改革大綱」に基づき、「行政改革推進計画」に掲げる取組項目を計画的に実施してきており、一定程度の成果があったものとする。</p>
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
<p>成果向上余地 大</p> <p>理由 根拠</p> <p>成果向上余地 小・なし</p>	<p>「江別市行政改革大綱」に基づく、「行政改革推進計画」の着実な実施を図るとともに、ローリングにより取組項目を追加することにより、成果を向上させる余地がある。</p>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
<p>ある</p> <p>理由 根拠</p>	<p>本事業は、必要最低限度の経費に縮小しており、コスト削減は限界に達している。</p>

事業名：行政評価・外部評価推進事業

政策推進課参事（総合計画・総合戦略）

政 策	09 計画推進		戦 略	
取組の 基本方針	01 自主・自立の市政運営の推進		プロジェクト	
			プログラム	
開始年度	平成16年度	終了年度	—	補助金の性格

事務事業の目的と成果				
対象（誰、何に対して事業を行うのか）				
<ul style="list-style-type: none"> ・市職員 ・市民 				
手段（事務事業の内容、やり方）				
<ul style="list-style-type: none"> ・評価調書の作成など、事務事業を基礎とする行政評価を行う。 ・行政評価にかかる指標把握等のため、市民アンケート調査を実施する。 ・行政評価を行う職員の技能向上を目的として、庁内説明会や研修会を開催する。 				
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）				
<ul style="list-style-type: none"> ・行政評価の手法を用いて、PDCAサイクルによる総合計画の推進が図られる。 				

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	市職員	人	1,160	1,162	1,139	1,139
対象指標2	市民	人	119,250	118,979	118,971	118,971
活動指標1	行政評価説明会等開催回数	回	2	1	3	2
活動指標2	外部評価委員会開催回数	回	6	6	0	0
成果指標1	まちづくり政策にかかる成果指標の目標達成割合	%	64.9	66.7	64.4	100
成果指標2	計画的に成果が上がっている事務事業の割合	%	92.3	92.9	90.3	100
事業費(A)		千円	2,824	2,923	2,783	2,427
正職員人件費(B)		千円	11,505	9,142	9,152	7,775
総事業費(A+B)		千円	14,329	12,065	11,935	10,202

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
30年度	市民アンケートの実施 庁内研修会の実施	市民アンケート実施経費 庁内研修会開催経費	2,767千円 16千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
平成16年度スタートの第5次総合計画の策定に伴い、PDSサイクルなどの新しい手法を取り入れ、上位貢献をはじめとした統一的な視点で行政の検証・見直しを行うシステムとして導入した。	
事業を取り巻く環境変化	
平成26年度からの第6次総合計画「えべつ未来づくりビジョン」からは、行政評価をベースとしたマネジメントサイクルをPDSサイクルからPDCAサイクルへ見直しを行い、総合計画の継続的な向上をめざしながら進行管理を行っている。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
<p>妥当性が低い</p>	<p>理由 根拠</p> <p>「えべつ未来づくりビジョン<第6次江別市総合計画>」は、江別市の最上位計画であり、本事業は総合計画の目標を達成するための進行管理を行うものであり、市の役割に適うものである。</p>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
<p>貢献度 ふつう</p> <p>貢献度 小さい</p> <p>基礎的事務事業</p>	<p>理由 根拠</p> <p>第6次江別市総合計画は行政評価の手法を用いて計画の進行管理を行うこととしており、毎年度総合計画を推進する手立てである事務事業を評価し、改善に結び付けていく本事業の貢献度は大きい。</p>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
<p>上がっている</p> <p>どちらかといえば上がっている</p>	<p>理由 根拠</p> <p>第6次江別市総合計画は平成26年度を始期とした10か年の計画であり、平成30年度は中間年に当たる5年目の実績となる。 成果指標1、2ともに平成29年度実績と比較すると実績値は低下しているが、いずれも高い水準で推移している。</p>
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 小・なし</p>	<p>理由 根拠</p> <p>行政評価の手法により、各施策や事務事業の積極的なスクラップアンドビルドを行うことで更なる成果の向上が期待されるほか、外部の視点を取り入れることによる成果の向上も期待される。</p>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
<p>ある</p>	<p>理由 根拠</p> <p>本事業は行政評価及び外部評価を実施する上で必要最低限の内容にて実施しているため、コストの削減は困難である。</p>

事業名：広域行政推進事業

企画課 企画係

政 策	09 計画推進		戦 略	
取 組 の 基本方針	01 自主・自立の市政運営の推進		フロンティア	
			プログラム	
開始年度	平成 9年度	終了年度	平成30年度	補助金の性格

事務事業の目的と成果				
対象（誰、何に対して事業を行うのか）				
札幌広域圏組合構成市町村（札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村）を中心とした広域圏域の住民、行政機関。				
手段（事務事業の内容、やり方）				
札幌広域圏市町村が実施する協力連携事業に負担金を支払う。				
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）				
圏域市町村にまたがる具体的な共同ソフト事業を実施することにより、圏域全体の行政課題解決や圏域全体の振興を図る。				

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標 1	構成市町村数	市町村	8	8	8	0
対象指標 2						
活動指標 1	札幌広域圏組合負担金額	千円	598	585	571	0
活動指標 2						
成果指標 1	研修事業参加職員数（構成市町村）	人	162	141	168	0
成果指標 2						
事業費 (A)		千円	598	585	571	0
正職員人件費 (B)		千円	2,685	2,666	2,669	0
総事業費 (A + B)		千円	3,283	3,251	3,240	0

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	<ul style="list-style-type: none"> 研修事業（共同研修事業、新規職員後期研修事業） 首都圏PR事業 移住促進事業 他 	札幌広域圏組合負担金 571千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
経済活動、情報の広域化に伴い、共同でのソフト事業の実施により圏域全体の振興を図るため、平成9年に、石狩管内10市町村によって札幌広域圏組合を設立した。	
事業を取り巻く環境変化	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年10月1日に石狩市、厚田村、浜益村が合併し、札幌広域圏組合の構成団体は当初の10市町村から8市町村となった。 ・平成21年3月末で、国の「ふるさと市町村圏推進要綱」は廃止されたが、構成市町村の協議により、組合の取組を継続していくことが確認された。 ・現在の低金利状況下において組合の基金の運用益が大幅に減少していくことが見込まれており、新たな広域連携の枠組みとして連携中樞都市圏が平成31年度に形成される予定。これに伴い組合も廃止となる予定。 	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
<p>妥当性が低い</p>	<p>理由 根拠</p> <p>市町村の域を超えて、共同で圏域振興に係るソフト事業や職員研修などの事業展開を図ることは妥当である。</p>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
<p>貢献度 ふつう</p> <p>貢献度 小さい</p> <p>基礎的事務事業</p>	<p>理由 根拠</p> <p>構成市町村が市町村の枠を超えて、共同で職員研修・研究を行い、また圏域全体の振興に係る協働のソフト事業を行うことは、効率的・効果的な行政運営に大きく貢献している。</p>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
<p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p>	<p>理由 根拠</p> <p>圏域で連携して取り組むべき事業の精査が行われ、費用対効果に重点を置いた事業を行うことができている。</p>
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 小・なし</p>	<p>理由 根拠</p> <p>新たな広域連携の枠組に移行することによって、より効率的な連携事業を実施できる可能性がある。</p>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
<p>なし</p>	<p>理由 根拠</p> <p>新たな広域連携の枠組に移行することによって、負担金によらない事業実施の可能性はある。</p>

事業名：広聴活動事業

広報広聴課 広報広聴係

政 策	09 計画推進		戦 略	
取 組 の 基本方針	02 透明性と情報発信力の高い市政の推進		フロンティア	
			プログラム	
開始年度	—	終了年度	—	補助金の性格

事務事業の目的と成果				
対象（誰、何に対して事業を行うのか）				
・ 市民				
手段（事務事業の内容、やり方）				
・ 現状の広聴手段である①面談、②広聴箱、③郵便、④電話、⑤FAX、⑥Eメール、⑦施設見学会、⑧市民アンケート、⑨各種懇談会、⑩パブリックコメントの利用増、機会の拡充を図るとともに、それらの有効性の検証を行う。				
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）				
・ 市政に対する市民の意見、要望、提言等を伝える媒体を整備することで、市民が市政に関する意見を伝えやすくなる。				

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	市民	人	119,250	118,979	118,971	118,971
対象指標2						
活動指標1	市民が市へ意見や要望を伝える手段の数	個	10	10	10	10
活動指標2						
成果指標1	1年間に寄せられた意見や要望の件数（陳情・要望・市民の声）	件	289	279	275	282
成果指標2	1年間に寄せられた意見や要望の件数（パブリックコメント）	件	142	99	166	116
事業費(A)		千円	0	0	0	0
正職員人件費(B)		千円	4,602	5,333	5,339	5,443
総事業費(A+B)		千円	4,602	5,333	5,339	5,443

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	・ 市民からの意見・要望を所管課に伝え、市政に反映させる。	・ 人件費事業

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の市政に対する意見、要望、提言を行政に反映させるために事業を開始。 ・平成16年度に政策審議室広報広聴担当から現在の企画政策部広報広聴課に体制を格上げして事業に当たっている。 ・平成30年4月に広聴担当部門を新設し、意見や要望の受理体制を強化したほか、市民相談業務の充実を図った。 	
事業を取り巻く環境変化	
<ul style="list-style-type: none"> ・意見や要望などを伝える媒体として、スマートフォン等の普及に伴いインターネットの利用増加が続いている。 ・庁内各部署にメールアドレスが配置され、意見や要望に対する回答の迅速化が図られた。 	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
<p>妥当性が低い</p> <p>理由 根拠</p>	<p>市民の市政に対する意見、要望、提言を行政に反映させ、さらにはその範囲、手段を確保することは、行政の役割として基本的な要素である。</p>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
<p>貢献度 ふつう</p> <p>貢献度 小さい</p> <p>基礎的事務事業</p> <p>理由 根拠</p>	<p>あらゆる機会を通じ、市民が市政に対して意見等を事由に伝える環境を整備することは、市民ニーズの把握と市政への反映を行う上で重要である。</p>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
<p>上がっている</p> <p>上がっていない</p> <p>理由 根拠</p>	<p>市政に対する意見・要望の件数は、気象状況や国の制度改正などによって年度による変動があるが、毎年多くの市民の声が寄せられている。今後も多くの市民が利用できるよう、広聴活動の周知を図っていく必要がある。</p>
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 小・なし</p> <p>理由 根拠</p>	<p>年間を通じていつでも受付できるよう、専門知識を豊富に有する市職員OBなどを配し、利便性の向上や業務の効率化など、広聴の仕組みを整備検討する余地がある。</p>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
<p>なし</p> <p>理由 根拠</p>	<p>電話自動受付や業務委託による事業の効率化、人件費の削減など、今後も調査研究が必要である。</p>

事業名：広報えべつ発行事業

広報広聴課 広報広聴係

政 策	09 計画推進		戦 略	
取 組 の 基本方針	02 透明性と情報発信力の高い市政の推進		プロジェクト	
			プログラム	
開始年度	—	終了年度	—	補助金の性格

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民 ・世帯 	
手段（事務事業の内容、やり方）	
<ul style="list-style-type: none"> ・A4判1色刷（表・裏表紙はカラー印刷）、月平均28ページ、毎月1日付、年12回発行。 ・編集の一部及び印刷、製本については業務委託し、発行に係る企画、取材、編集、版下作成を直接職員が行う。 ・配布については、自治会に郵送し各戸配布を依頼している他、ホームページへの掲載、自治会未加入者等のために市内の大学、公共施設、JR駅、郵便局、大学・企業の寮、コンビニ、スーパー、病・医院、美容院等にも設置。 	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
<ul style="list-style-type: none"> ・市政の基本方針を始め、業務・事業紹介、制度改革、市民活動団体の紹介等、市民生活に係る事項について市民に周知される。 	

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	市民	人	119,250	118,979	118,971	118,971
対象指標2	世帯数	世帯	56,047	56,456	57,155	57,155
活動指標1	月平均作成部数	部	47,205	47,180	47,138	47,050
活動指標2	広報配布箇所数	箇所	277	271	268	269
成果指標1	配布率	%	82.9	81.8	80.1	82.8
成果指標2	広報えべつを読んでいる市民の割合	%	86.1	83.8	84.5	83.8
事業費(A)		千円	13,582	13,785	13,869	15,571
正職員人件費(B)		千円	11,505	11,427	11,441	11,663
総事業費(A+B)		千円	25,087	25,212	25,310	27,234

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	・広報えべつの発行	・広報えべつ作成経費 13,869千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
市の施策や業務、事務内容及び市民生活に関する情報の周知・理解を図るため、昭和25年に「町政だより」として発刊。昭和29年7月の市政施行を機に「市政だより」、昭和41年5月に「広報えべつ」と名称を改めて市政情報を発信している。	
事業を取り巻く環境変化	
配布については自治会による戸別配布を基本としているが、高齢化や自治会未加入者の増加等により全戸配布が困難となっており、今後も配布方法について継続的な検討を要する。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
<p>妥当性が低い</p>	<p>理由 根拠</p> <p>市の施策、業務・事務内容及び市民生活に関する情報の周知・理解を図ることは市政の基本事項であり、市民と行政が共通の理解と認識を持つ手段として重要である。</p>
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
<p>貢献度 ふつう</p> <p>貢献度 小さい</p> <p>基礎的事務事業</p>	<p>理由 根拠</p> <p>「広報えべつを読んでいる市民割合」は8割を超えており、市政情報の周知に大きな役割を果たしている。</p>
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
<p>上がっている</p> <p>上がっていない</p>	<p>理由 根拠</p> <p>見やすい誌面構成や積極的な特集記事のほか、業務の最適化の観点から一部定例記事の業務委託、スーパー・コンビニ・病院等への設置により、多くの市民が閲覧できるよう努めている。</p>
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 小・なし</p>	<p>理由 根拠</p> <p>内容が豊富な反面ページ数も多く、今後も掲載情報の整理及び文章の簡略化等による見やすく分かりやすい効率的な誌面構成を行う。</p>
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
<p>なし</p>	<p>理由 根拠</p> <p>・有料広告件数の増加による広告料収入の増 ・市職員全員が広報マンであるという意識の醸成を引き続き図るとともに、広報の費用対効果についての共通認識を高める（掲載内容の選択と集中）。</p>

事業名：ウェルカム江別事業

広報広聴課 広報広聴係

政 策	09 計画推進		戦 略	04 えべつの魅力発信シティプロモート	
取組の 基本方針	02 透明性と情報発信力の高い市政の推進		プロジェクト	A ニーズにあわせた効果的な情報発信	
			プログラム	③ 江別市に住んでもらうための生活情報の発信	
開始年度	平成23年度	終了年度	—	補助金の性格	

事務事業の目的と成果					
対象（誰、何に対して事業を行うのか）					
<ul style="list-style-type: none"> ・江別市外在住でこれから移住・定住を考える子育て世帯 ・江別市民のうち移住・定住を考える世帯 					
手段（事務事業の内容、やり方）					
冊子・リーフレット等の発行、ウェブサイトやSNSの運営等を通じて、江別の住み良さを情報発信する。					
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）					
<ul style="list-style-type: none"> ・江別市の認知度が上がることで、市外在住者に移住候補先として江別市を意識してもらう機会が増える。 ・江別市の具体的な住環境等を知ってもらうことで、江別市への転入促進が図られる。 ・江別市民に江別の住環境の良さを再認識してもらうことで、転出抑制が図られる。 					

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	江別市内外の移住・定住を考える世帯（把握困難）	人	0	0	0	0
対象指標2						
活動指標1	パンフレット等作成部数	部	33,000	33,500	20,000	4,000
活動指標2	ホームページ更新回数（年間）	回	23	11	11	12
成果指標1	パンフレット等配布部数（年間）	部	33,000	33,500	20,000	4,000
成果指標2	ホームページのアクセス件数（年間ページビュー）	件	14,394	8,578	10,458	14,200
事業費(A)		千円	2,542	7,747	1,739	1,112
正職員人件費(B)		千円	2,301	3,047	3,051	3,110
総事業費(A+B)		千円	4,843	10,794	4,790	4,222

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・江別の良さをPRするパンフレットの増刷とリーフレットの作成 ・転入者への生活情報をまとめた冊子の作成 ・市内全域のマップの作成 ・市勢要覧の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全域のマップ作成経費 10,000部 443千円 ・江別の良さをPRするパンフレット増刷経費 3,000部 322千円 ・同リーフレットの新規作成 1,000部 292千円 ほか 	

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
日本が本格的な人口減少の時代を迎え、江別市においても平成17年をピークに人口が減少し、少子高齢化も確実に進行している。 今後、定住人口や交流人口を増加させるため、江別市外の方に江別の良さを印刷物等でアピールし、江別市の人口増加に寄与することを目的し、事業を開始した。	
事業を取り巻く環境変化	
パンフレット等や市ホームページのほか、フェイスブック等のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）など、道内外に向けて多様な媒体での情報発信が可能となってきた。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当性が低い	理由 根拠 江別市の魅力を発信し、定住者の増加及び入込客数の増加を図ることは市の役割として妥当である。
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 ふつう 貢献度 小さい 基礎的事務事業	理由 根拠 市の公式ページで提供している行政情報とは別に、江別の魅力を道内外に積極的にPRすることは、えべつ未来戦略（ニーズにあわせた効果的な情報発信）において目指しているところであり、貢献度は大きい。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
上がっている 上がっていない	理由 根拠 当事業の成果指標だけで成果をとらえることは難しいが、一方で、動画やSNSでの反応が好調であり、今後に期待できる。
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 SNSなどの多様な情報発信媒体の活用により、多くの人に市の魅力を理解してもらえる環境が整備され、さらに大学との連携を進めることで若い世代に江別の魅力をPRする機会が増えることも期待できる。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
なし	理由 根拠 パンフレット類の統合や配布方法、配布先の見直し・効率化による発行部数の軽減

事業名：ホームページ運営事業

広報広聴課 広報広聴係

政 策	09 計画推進		戦 略	
取 組 の 基本方針	02 透明性と情報発信力の高い市政の推進		プロジェクト	
			プログラム	
開始年度	平成13年度	終了年度	—	補助金の性格

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
・市民および江別市の情報を必要としているインターネット利用者	
手段（事務事業の内容、やり方）	
・市公式ホームページによる市政情報やイベント情報などの提供	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
・市政情報などを迅速かつ分かりやすく提供することで、市と市民が行政情報を共有する。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	インターネット利用者数（測定不能）	人	0	0	0	0
対象指標2						
活動指標1	情報更新回数（年間）	件	4,639	4,348	4,310	4,400
活動指標2						
成果指標1	ホームページアクセス数（年間）	回	4,612,746	4,103,954	4,416,509	4,445,000
成果指標2						
事業費(A)		千円	710	578	312	799
正職員人件費(B)		千円	7,670	7,618	7,627	7,775
総事業費(A+B)		千円	8,380	8,196	7,939	8,574

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
30年度	・市ホームページの管理・運営	・コンテンツ管理システムの保守運営経費	267千円
		・コンテンツ管理システムの回線使用料等	46千円

事業を取り巻く環境変化
事業開始背景
インターネットの普及により、行政情報をいち早く発信するため、平成13年度から市のホームページを開設し、インターネットによる市政情報等の発信を開始した。
事業を取り巻く環境変化
平成25年度にCMS（コンテンツ管理システム）を導入し、分類方法を見直す等して閲覧者が見やすく、使いやすいシステムを構築し、また、所管部署が直接、情報の更新等を行えることとなり、より迅速な情報発信が出来るようになった。

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当性が低い	理由 根拠 インターネットを利用した情報提供・公開は、現代において紙媒体の広報誌と両輪をなす重要な情報発信媒体であるため。
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 ふつう 貢献度 小さい 基礎的事務事業	理由 根拠 インターネットを活用した行政情報の提供は、市の迅速な情報公開の推進や危機対策に結びつくため。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
上がっている 上がっていない	理由 根拠 平成25年度（平成26年1月）のCMS（コンテンツマネジメントシステム）導入後、サイトの構成やデザイン、情報分類方法等を見直し、大型バナーによるイベント周知、市政情報の発信数を増やしている。ホームページアクセス数は横ばいだが、スマートフォンなどの普及に伴い、SNSによる情報の拡散に努めている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 SNSと連携した多角的な情報発信を進めており、多様化する利用者ニーズに対応できるよう努めている。 また、時代の変化に合わせて必要な機能を持つCMS（コンテンツマネジメントシステム）への転換により、より有効な情報発信が可能となる。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
なし	理由 根拠 有料広告件数の増加による広告収入の増。 CMS（コンテンツマネジメントシステム）の導入により、所管課での更新が可能となったことから、更新作業が効率的になるよう、運営方法の更なる充実を図っていく。

事業名：えべつシティプロモーション事業

政策推進課参事（住環境活性化・シティプロモート）

政 策	09 計画推進		戦 略	04 えべつの魅力発信シティプロモート	
取組の 基本方針	02 透明性と情報発信力の高い市政の推進		プロジェクト	A ニーズにあわせた効果的な情報発信	
			プログラム	④ 江別市のイメージづくり	
開始年度	平成26年度	終了年度	—	補助金の性格	

事務事業の目的と成果					
対象（誰、何に対して事業を行うのか）					
市外居住者					
手段（事務事業の内容、やり方）					
<ul style="list-style-type: none"> ・市内大学・企業・経済団体などとともに市のプロモーション（売り込みや知名度向上）のための推進組織（江別シティプロモート推進協議会）を設置し、官民一体的なプロモーションを検討の上、江別の魅力を発信するイベント等の推進プロジェクトを実践する。 ・市民等がブログで江別の情報を発信する仕組みづくり（江別市民ブロガーズ）など、まちのイメージを高めるための戦略的な取組を構築する。 ・印刷物やホームページをはじめInstagramやフェイスブックなどのSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の活用など、状況に合わせた効果的な情報発信を検討の上、実施する。 					
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）					
江別シティプロモート推進協議会における官民一体的なプロモーション、まちのイメージを高めるための戦略的な取組、多様な情報発信の実践を通して、積極的に江別市の魅力をPRし、江別市に対する認知度、イメージを向上させる。 認知度やイメージの向上は、企業誘致、観光や転入促進など市外の対象に働きかける様々な活動を効果的・効率的に推進するために必要な要素である。					

指標・事業費の推移						
	区分	単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	市外居住者	千人	126,814	126,587	126,321	126,321
対象指標2						
活動指標1	推進プロジェクト等の活動回数	回	15	10	12	10
活動指標2						
成果指標1	江別市の認知度の道内順位	位	20	20	21	18
成果指標2						
	事業費(A)	千円	3,783	4,916	3,830	5,355
	正職員人件費(B)	千円	9,971	15,236	15,254	15,550
	総事業費(A+B)	千円	13,754	20,152	19,084	20,905

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「食」を核としたプロモーション活動（フリーペーパーの活用など） ・子育て世代向けプロモーション（セミナー開催など） ・江別市シティプロモート推進協議会の運営と推進プロジェクト実践活動（ワークショップ開催、ウェブサイト・SNSの運営など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「食」を核としたプロモーション活動 1,279千円 ・子育て世代向けプロモーション（セミナー開催など） 1,515千円 ・江別市シティプロモート推進協議会の運営と推進プロジェクト実践活動 812千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
日本が本格的な人口減少の時代を迎え、江別市においても平成17年をピークに人口が減少し、少子高齢化も確実に進行している。今後、定住人口や交流人口を増加させるためには、まずは江別の良さが道内外に広く認知される必要があることから、市内の関係団体からなる協議会（江別シティプロモート推進協議会）を設立し、江別の認知度の向上を図れるような体制を構築していく。	
事業を取り巻く環境変化	
江別市においては、平成17年をピークに人口が減少し少子高齢化が進行しているが、少子高齢化、都市部への一極集中は全国的な傾向であり、PR合戦として多くの自治体が似たような取組みを行う中で、新聞・テレビ・雑誌・ポスター等のマス広告的手法は莫大な費用がかかるうえにニーズや価値観の多様化に伴って一定の限界があり、これを補う手法としてクチコミ情報の活用が注目されている。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）	
妥当性が低い 	人口減少・少子高齢化により生産年齢人口が相対的に少なくなることへの対応として、定住人口や交流人口を増加させることは、総合計画において目指しているところであり、その実現のために江別の良さを道内外に広くPRし認知度を向上させることは、市の役割に適うものである。
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）	
貢献度 ふつう 貢献度 小さい 基礎的事務事業 	江別市の魅力をPRし、道内外に広く認知されるようになれば、総合計画で推進されている観光振興、産業振興、定住促進など様々な分野への波及効果が望めることから、貢献度は大きい。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）	
上がっている  上がっていない	成果指標は横ばいで推移しているものの、市の情報発信の仕組みづくりとともに、市民自ら情報発信を行う「江別市民ブロガーズ」の取組が活発になってきており、情報発信の担い手の裾野が広がっている。市民協働の情報発信で共感形成を広げていく土台作りが進んでいる。
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）	
成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし 	これまでプロモーションを担ってこなかった人材・組織が、市のシティプロモート活動に呼応して、情報発信の担い手となっていき動きが出ている。現在の市民協働を基礎に置く活動を継続的に続けていくことで、情報発信のさらなる広がりが期待でき、成果が向上する余地は大きい。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）	
なし 	江別市民ブロガーズ等の取組をはじめ、市民協働によるプロモートの輪が広がっており、マスメディアに出る江別に関する情報を市民が事前に掴み、情報共有しながらSNS等で発信する動きが出てきている。無料で流れるメディア情報を有効活用する環境が整いつつあるため、有料広告を絞り込むなど広告予算を削減できる余地がある。

事業名：北海道移住促進事業

政策推進課参事（住環境活性化・シティプロモート）

政 策	99 政策の総合推進		戦 略	
取 組 の 基本方針	01 政策の総合推進		プロジェクト	
			プログラム	
開始年度	平成18年度	終了年度	平成30年度	補助金の性格

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
移住検討者	
手段（事務事業の内容、やり方）	
北海道移住促進協議会に参加し、首都圏に住む団塊の世代等をメインターゲットに、プロモーション活動を行う。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
江別市の住みやすさが的確に伝わることで、移住促進が図られる。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	全国総人口	千人	126,933	126,706	126,443	0
対象指標2						
活動指標1	プロモーション活動回数	回	3	1	2	0
活動指標2						
成果指標1	移住に関する問合せ件数	件	18	10	11	0
成果指標2						
事業費(A)		千円	50	50	50	0
正職員人件費(B)		千円	2,301	2,285	2,288	0
総事業費(A+B)		千円	2,351	2,335	2,338	0

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・移住ワンストップ窓口 ・イベント（首都圏移住フェア等）でのパンフレット配布 	北海道移住促進協議会負担金 50千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
平成17年当時、退職時期を間近に迎える団塊の世代は首都圏で110万人と言われており、第2の故郷探しの動きを踏まえて、同年9月北海道移住促進協議会が設立され、当市は同年11月に加入した。	
事業を取り巻く環境変化	
江別市のターゲットは、首都圏だけでなく、札幌圏を含む地域からの子育て世帯等を対象としている。令和元年度から北海道移住促進事業と大麻地区住環境活性化事業の一部を統合し、定住促進事業として企画課から政策推進課に事務移管した。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）					
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）					
<table border="1"> <tr> <td>妥当性が低い</td> <td rowspan="2">理由 根拠</td> <td rowspan="2">江別市の魅力を情報発信し、人口増加に向けた取組を行うことは、妥当性がある。</td> </tr> <tr> <td>妥当性が高い</td> </tr> </table>	妥当性が低い	理由 根拠	江別市の魅力を情報発信し、人口増加に向けた取組を行うことは、妥当性がある。	妥当性が高い	
妥当性が低い	理由 根拠			江別市の魅力を情報発信し、人口増加に向けた取組を行うことは、妥当性がある。	
妥当性が高い					
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）					
<table border="1"> <tr> <td>貢献度 大きい</td> <td rowspan="2">理由 根拠</td> <td rowspan="2">市のPRは、移住に向けての基礎となる事業である。</td> </tr> <tr> <td>貢献度 小さい</td> </tr> </table>	貢献度 大きい	理由 根拠	市のPRは、移住に向けての基礎となる事業である。	貢献度 小さい	
貢献度 大きい	理由 根拠			市のPRは、移住に向けての基礎となる事業である。	
貢献度 小さい					
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）					
<table border="1"> <tr> <td>上がっている</td> <td rowspan="2">理由 根拠</td> <td rowspan="2">一定の問合せ件数がある。</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	一定の問合せ件数がある。	上がっていない	
上がっている	理由 根拠			一定の問合せ件数がある。	
上がっていない					
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）					
<table border="1"> <tr> <td>成果向上余地 中</td> <td rowspan="2">理由 根拠</td> <td rowspan="2">江別市の魅力発信を継続することで、成果向上の余地はある。</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小・なし</td> </tr> </table>	成果向上余地 中	理由 根拠	江別市の魅力発信を継続することで、成果向上の余地はある。	成果向上余地 小・なし	
成果向上余地 中	理由 根拠			江別市の魅力発信を継続することで、成果向上の余地はある。	
成果向上余地 小・なし					
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）					
<table border="1"> <tr> <td>ある</td> <td rowspan="2">理由 根拠</td> <td rowspan="2">現状のコストは北海道移住促進協議会の負担金のみ。一律で負担。</td> </tr> <tr> <td>ない</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	現状のコストは北海道移住促進協議会の負担金のみ。一律で負担。	ない	
ある	理由 根拠			現状のコストは北海道移住促進協議会の負担金のみ。一律で負担。	
ない					

事業名：えべつ冬季イベント事業

企画課 企画係

政 策	99 政策の総合推進		戦 略	
取 組 の 基本方針	01 政策の総合推進		プロジェクト	
			プログラム	
開始年度	昭和56年度	終了年度	—	補助金の性格

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
市民	
手段（事務事業の内容、やり方）	
青年会議所をはじめ、市内各種団体、市内大学生等と実行委員会を組織し、冬季イベントを開催する。	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
雪を素材とした市民交流・親子のふれあいの場を提供する。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度当初
対象指標1	市民	人	119,250	118,979	118,971	118,971
対象指標2						
活動指標1	実行委員会予算額	千円	3,415	3,555	3,519	3,519
活動指標2						
成果指標1	来場者数	人	22,000	19,000	17,000	20,000
成果指標2						
事業費(A)		千円	0	0	0	0
正職員人件費(B)		千円	2,301	2,285	2,288	0
総事業費(A+B)		千円	2,301	2,285	2,288	0

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
30年度	冬季イベント実行委員会の運営及び冬季イベント（スノーフェスティバル）の開催	人件費事業

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
市民交流・親子のふれあいの場を提供するために、昭和57年から開催。	
事業を取り巻く環境変化	
平成12年度 それぞれ独立したイベントの「えべつスノーフェスティバル」と「マシュマロンピック」を統合し、「えべつスノーフェスティバル&マシュマロンピック」を開催 ※マシュマロンピック～自治体対抗でアイス（スノー）キャンドル作りの参加人数や作品数などを競うほか、雪像コンテスト（個人参加）を行うイベント 平成16年度 「マシュマロンピック」に係る地区会場の自治体対抗方式の廃止 平成20年度 イベント名称を「えべつスノーフェスティバル&マシュマロンピック」から「えべつスノーフェスティバル」に改称。	

平成30年度の実績による担当課の評価（平成31年度7月時点）				
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？（目的妥当性）				
<table border="1"> <tr> <td>妥当性が低い</td> <td rowspan="2">理由 根拠</td> </tr> <tr> <td>妥当性が高い</td> </tr> </table>	妥当性が低い	理由 根拠	妥当性が高い	市民交流・親子のふれあいの場を提供することは、市の役割に合致する。
妥当性が低い	理由 根拠			
妥当性が高い				
(2) 上位計画等（総合計画・個別計画等）への貢献度は大きいですか？（上位貢献度）				
<table border="1"> <tr> <td>貢献度 大きい</td> <td rowspan="2">理由 根拠</td> </tr> <tr> <td>貢献度 小さい</td> </tr> </table>	貢献度 大きい	理由 根拠	貢献度 小さい	冬季期間に親子で雪に親しむという機会の提供は貴重である。
貢献度 大きい	理由 根拠			
貢献度 小さい				
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？（成果動向及び原因分析）				
<table border="1"> <tr> <td>上がっている</td> <td rowspan="2">理由 根拠</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	上がっていない	多くの来場者がある一方で、天候に左右される状況にある。
上がっている	理由 根拠			
上がっていない				
(4) 成果が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？（成果向上余地）				
<table border="1"> <tr> <td>成果向上余地 大</td> <td rowspan="2">理由 根拠</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小・なし</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	成果向上余地 小・なし	広く市民、団体等が参加して開催。毎年、各団体において検討のうえ、実施している。
成果向上余地 大	理由 根拠			
成果向上余地 小・なし				
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？（効率性）				
<table border="1"> <tr> <td>ある</td> <td rowspan="2">理由 根拠</td> </tr> <tr> <td>ない</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	ない	市が中心となっている実行委員会形式を見直し、NPO法人等が企画・運営等を行う方向性も考えられる。
ある	理由 根拠			
ない				